

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571500471		
法人名	有限会社 アドバンス工業		
事業所名	グループホーム あけぼの苑	ユニット名	B棟
所在地	宮崎県宮崎市田野町あけぼの2丁目32-1		
自己評価作成日	平成28年2月2日	評価結果市町村受理日	平成28年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&ixvoavocd=4571500471-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成28年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の見直しも充分行った結果、職員の入れ替えも有り理解されておらず実践に繋がっていない為新たな構築は行わず、現理念をを理解でき実践に繋げたい。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	常日頃より見学者・実習生の受け入れを積極的に行っている。夕涼み会では地域住民への参加を呼び掛け、敬老会でも地域の方々のボランティアによる歌・踊りを利用者に楽しんでもらっている。月1回の紙芝居ボランティアも継続している。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	代表者が「いきいきサロン」の代表として参加・活動する中で事業所の内容や認知症への理解を深めてもらうよう努力している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	苑内だけの会議にならないよう多方面に声掛けを行い、参加して頂き色々な意見をもらってサービス向上に活かしている。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表者が常々総合支所や包括支援センターに出向き、相談や現状報告を行い連携を取っている。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについてより楽しく理解する為にカンファレンス等で取り上げ、全職員で取り組んでいる。現場で気付いた時はその場で助言指導を行っている。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	機会有る毎に（新聞、ニュース）話し合いを持ち、虐待に繋がらないよう、見過ごされないように注意を払い、防止に努めている。			

宮崎県宮崎市田野町 グループホームあけぼの苑(B棟)

自己	外部	項 目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時には必ず家族等に対して説明し、情報提供を行っている。職員が学ぶ機会を作り理解し活用できるように努める。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはゆっくりと解りやすく十分な説明を行い、理解して頂くよう努めている。又、不安な事や疑問はないか確認をし、尋ねながら理解していただけるよう努め、納得して頂いている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「家族の会」設立には至っていないが運営推進委員会には参加して頂いており、意見、要望を運営に反映できるように努めている。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	合同カンファレンス時、業務の合間を利用し、職員の意見や提案に目を向け運営に反映できるように努めている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の負担を削減する為調理担当のパートを増員し夜勤手当も増やした。現在の介護報酬では職員の給与も賞与も増やすのも事業所としては精いっぱい努力している。改善策も絵に描いた餅のような物である。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回合同カンファレンスにて研修報告をし、職員の質の向上を目指している。調理の職員を入れる事で職員に研修に参加してもらう機会を作ったが、月替わりに職員の入れ替りがあり施設に慣れるのが現状で考え通りに事が進まないのが実情である。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、ケアマネ等には同業者の研修等に参加して頂き勉強会には参加していただいている。しかし、ニュース等で存じの通り離職率が高く管理者、ケアマネにも業務に参加して頂いているのが現状であるため、負担が管理者、ケアマネにかなり掛かっていると思われる。			

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人やご家族の要望・不安な事はないか、犯人やご家族の言葉に耳を傾けながら入居後しばらくは特に言動に気を配り、本人の安心を確保する為の関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時、入居後の面会、さらには定期的担当者会議を通して不安や要望等に耳を傾けながら、安心して頂ける様関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーが初期段階では積極的に窓口となり、本人、家族の意見、要望を聞き、管理者、担当者と情報の共有を行い必要とされている支援を見極めサーブす利用に反映できるように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に新聞紙たたみや洗濯物干し、たたみを行い、日常的な生活リズムをつくり、共に暮らしている仲間同士のような関係を築ける様努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には必ずご本人の日々の様子や健康面など伝え、家族の絆を大切にしながら共にご本人を支援していく関係作りに努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染み関係が途切れないように1・2カ月に一度のドライブを利用し自宅近辺に言ったり機会有る毎にご家族への声掛けに努めているが毎年難しい状況になっているのが現状です。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士を見極め、関わりやすい環境づくりをしている。時々職員が間に入り、それぞれの共通の話題を引き出せるような雰囲気作りを行い支援に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の要望や必要に応じてご本人の経過をフォローできる状況に努めている。又、田野施設に移られた時はご本人の生活状況や健康面の情報を提供するようにしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月1回のモニタリング(担当者とケアマネ)、月1回のカンファレンス(全員での職員会議)、毎日の援助記録等により個々の状態の把握に努めている。モニタリングは担当が一番理解しているので色々な事が聞けてケアプラン作りに役立っている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当者介具の時に昔の事が良く出る。行動や病歴について「そんな所がありました。」「昔からそうでした。」と言われ「ホッ」とする時もある。担当者会議や面会時を有効に使っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの中で少しでも「やれそうだ」「続きそうだ」「興味がありそうだ」と思った事はケアプランに取り入れ、笑顔でやっていращやるか観察している。一人ひとりの一日の過ごし方には全職員と連携を取り現状の把握を行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング月1回(担当者とケアマネ)ケアマネだけの見直し3カ月に1回(短期目標に添った見直し)アセスメント(6か月に1回)サービス担当会議(6か月1回)などにより作成している。又、月1回のカンファレンスや日々の様子により変化が生まれた時はその時に応じ変更している。担当者会議では家族、管理、看護師、担当者、ケアマネと真剣に取り組んでいる。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の実践記録を見ながらプラン通り行われているか、よりよいケアができているか、情報の共有を行っている。			

宮崎県宮崎市田野町 グループホームあけぼの苑(B棟)

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対して利用者の「幸せ」に繋がるものであればニーズに応じて支援していこうと思う。せん妄、妄想、興奮等著しい精神症状のある方を2ヶ月間お世話させて頂き職員はもう良かった。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回紙芝居のボランティア。年一回保育園の訪問。2カ月に一回近所の美容師による散髪。個人では日用品等買い出しに職員と出かける。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族の希望を重視し、かかりつけ医の継続に努めている。転医の必要がある場合はご本人、ご家族に十分な説明を行い、納得が得られるよう努めており、協力医療機関と事業所の関係も良い状態にある。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の方々のバイタルチェックを毎日実施しており、体調変化や異常時の変化に注意している。又、何か変化があった時はすぐに連絡を取り合い情報共有に努め、相談し適切な受診や看護を受けられるように支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関やかかりつけ医との情報交換や相談を密に行っている。ご本人への面会に行ったりご家族への連絡を常に声掛け良い関係を維持している。医療関係者との関係も良い状態である。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を作成している。担当者会議で家族へ十分な説明を行っている。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本マニュアルの作成はしているが定期的な訓練は行っていない。			

宮崎県宮崎市田野町 グループホームあけぼの苑(B棟)

自己	外部	項 目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練、避難訓練は年2回消防署員の指導のもと実施している。火災訓練の際、事前にチラシを作り近隣の方々にチラシを配布し声掛けをしたが参加者はおられなかった。			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重すると同時に人生の先輩である事を心にとどめその人に合った言葉かけを行い、プライバシーを損ねる事がないよう日々努めて対応している。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望ができる限り引き出せるよう寄り添うケアに努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの希望、思いに添えるよう支援しているが午前中は職員と利用者同士の交流を図る目的と健康維持の為、体操・歌・雑談・レクリエーション(輪投げ、ボール遊び等)を実施している。午後はそれぞれのペースでパズルやけん玉をしたり読書・VD、TVなどを楽しんでもらっている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や外出時、本人の希望を聞いたりした日常と違っておしゃれができるよう支援している。身だしなみには気を配りその人らしく過ごせるよう日々支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り一人ひとりの希望を取り入れようと努めメニューを考え、食事を提供している。花見、敬老会などにはその時期に合ったお弁当を取り入れ提供し喜んで頂いている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	偏った食事にならないよう配慮し、栄養バランスを考え提供している。又、利用者の摂取状態を観ながら食事量、形態を変えて提供している。食事摂取量は毎日記録し、水分量もその人に合った量を提供し、飲まれる様介助も行っている。			

宮崎県宮崎市田野町 グループホームあけぼの苑(B棟)

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ずその人に合わせた介助支援を行い清潔保持に努めている。舌苔ケアも必要に応じ支援している。基本的には義歯消毒は週1回月曜日実施しているが、利用者によっては毎日実施している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに添ってトイレ誘導や声掛け行って少しでも排泄意識がつくように支援をしている。日中は可能な限りトイレでの排泄を促し自立へ向けた支援を行っている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックは毎日行い、記録している。便秘症の利用者には早朝、冷水を提供したり水分補給に努めたり、腹部マッサージを行っているがそれでも効果ない方々にはかかりつけ医に相談して緩下剤や坐薬の処方をお願いしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	業務上、それぞれの希望を取り入れての入浴支援は難しい所もあるができる限りの対応は行っている。夜間入浴希望される方は現在おられない。一日ごとの午後入浴を実施している。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中は状態観察、バイタルチェックの為にホールで過ごして頂き、後、お茶、牛乳等水分補給をして頂いた後、体操、歌、レクリエーション歩行運動をしている。午後利用者によって一時間程臥床して頂いている。パズルやTV・DVDを観て過ごされる。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬を防ぐために一人ひとりの薬を服薬時、名前、日付け、アサ、ヒル、ヨルを声を出して確認し与薬している。一人ひとりが服用している薬の目的、副作用、用法等を理解に努めており、症状の変化の確認を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの生活歴を考慮し日々のプランに取り入れ生きがいや喜びを感じられるように支援している。(けん玉、読書、パズル、雑談、畑いじり)			

宮崎県宮崎市田野町 グループホームあけぼの苑(B棟)

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬場は困難であるが春、夏、秋は天気の良い日は外気浴、苑庭散歩、近隣の散歩に出かけている。家族によっては協力的で外泊を週一回実施している方もいる。定期的(行事月を除く)ドライブの実施。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在一人だけ常に財布を所持している方がいる。(手元に財布がないと不安感が出現する為)利用者さんによってはお金に全く関心を示さない方もいる。紅葉狩りの際や本人が買い物かしたいと要求時支援を行っている方もいる。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出や要望があればいつでも対応できるようにしているが殆ど関心を示されない。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は殆どホールで過ごして頂いており、ホールでの瀬氏の配置やソファ位置等を考慮したり、その時期に合った音楽を流したり、飾り付けをすることで生活感、季節感を取り入れるように工夫をしている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者さんの希望に応じて席の移動を考慮したり、TVの前やソファでゆっくりと横になれたり、又、気の合う方々が談笑できるよう思い思いに過ごせるよう工夫している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込まれたり利用者さんが必要と思われた家具を買われたり、ご家族の写真や妻の位牌を持ち込まれたりされている方もおられる。利用者さんによってシンプルさを好まれる方もおり、その方に合った居室作りに努めている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・床はバリアフリー、手摺の設置、夜間時はセンサー式照明の設置。・トイレや各々の居室にはわかりやすいそれぞれ花の名前を表示している。・ベッドサイドにはその方に合ったカバー設置等工夫している。			